提督「短所強調ボタン」

レモンふりかけ胡麻味噌まみれ

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

自分に対して口や態度が悪い艦娘に頭を抱える提督。

そんな彼が思いついた気まぐれの実験。

目次

実験の準備をしよう！ ―――― 1
実験開始！～曙編～ ―――― 6
実験をしよう！～山城編～ ―――― 16
実験をしよう！～川内編～ ―――― 26
実験をしよう！～隼鷹＆ポーラ編～ 40

実験の準備をしよう！

明石「なんですかそのネーミングセンスの欠片も無いボタンは…というよりなぜそんなものを作ってほしいんです？」

提督「最近もともと口や態度の悪い娘たちがさらに悪くなってきてな…正直俺も参っているんだ。そこで一度自分がどう思われてるかを知ってほしいと考えたんだ。」

明石「なるほど…ではその艦娘の短所を周りの艦娘が反映させるって感じですか？」

提督「その通りだ。周りは普通に接していても自分の短所が言動や態度に加えられるといった感じだが…できるな？」

明石「了解です！1日程度で出来ると思うんで出来たら直接届けますね！」

提督「あぁ、よろしく頼むぞ。」

提督（まぁ正直あいつらの反応楽しみたいだけなんだけどな。その為にはあいつも誘わなくちゃな…後明石は黒魔術か何かが使えるのか？）

１０分後

青葉「どもっ青葉です！いきなり呼び出して何の用でしょうか？」

提督「何、ちょっとした頼みがあってな…実は明日からある実験をするんだが、実験

を受けた艦娘の反応を記録したくてな。だからお前に撮影・録画を頼む。」
青葉「実験?!スクープの匂いと危ない匂いが同時にしてきました！」
提督「まぁ実験と言ってもな…」
～～～～提督説明中～～～～
青葉「これは中々良い画が撮れそうですね！でもタダでやれなんて言いませんよねぇ？」
提督「ぐっ…間宮券５枚でどうだ？」
青葉「さっすが提督話が分かりますね～♪
では私は早速機材の準備をしてきます！」
提督「よろしく頼むぞ」
提督「間宮券５枚かぁ…まぁ色んな艦娘の表情見れると思うと安い出費か。さて、明日に備えて今日は寝るか…」

１日目
提督「さて、そろそろ明石が来る頃かな？」
明石「おまたせしました！短所強調ボタンができましたよ！」

提督「ありがとう、明石。しかし本当に一晩でできるのか…大したものだな。徹夜で疲れてるだろう？今日は休暇を取って遊んでていいぞ？なんなら外出許可も出すぞ？」
明石「いや、徹夜はしてないですよ？」
提督「は？だったらどのくらいの時間がかかったんだ？」
明石「妖精さんの力を借りたので４時間くらいですかね～。」
提督「マジかよ…妖精さんハイスペックすぎるだろ…まぁいいや、一先ずお疲れ様。外出許可はいるか？」
明石「えっと…そのですね…速くできた代わりにと言ってはなんですが…」
提督「どうした？歯切れが悪いな。」
明石「うぅ…その…資源をかなり消費しまして…」
提督「？それなりに備蓄はあるから心配はないはずだが…」
資源「全部二桁やで」
提督「」
明石「…」ダラダラダラダラ
提督「…この先１ヶ月の出撃を禁止。全て遠征に回す…」
明石「た、只今全員に通達しますね！それでは！」ダッ
提督「マジか…いやこうなるだろうとは思ったけどさ…」

青葉「おはようございまーす…って良い表情してますね！一枚貰いますっ！」
提督「勝手にしてくれ…で、何の用だ？」
青葉「昨日言ってた機材の準備が完了しました！これでこの鎮守府の隅々まで見ることができますよ！」
提督「おぉ、お疲れ様。今日は休んでいいぞ。」
青葉「自由ってことですか？だったら今日は私も実験に参加します！あくまで見るだけですけど！」
提督「お前も興味あるのか？この実験に」
青葉「やっぱりリアルタイムで反応を見たいじゃないですか？」
提督「あぁ、そういう…なら話は早い、ターゲットを発表するぞ」
青葉「最初は誰なんですか？」
提督「最初は曙だ。あいついつもクソって言いやがって…それなりにキツイんだぞこっちも…」
青葉「あ、提督も傷付くんですね。意外でした。」
提督「意外は余計だ。照れ隠しって分かってても流石にクソって言うのは女の子としてもどうだろうって感じもするしな。」
青葉「まぁ私も最初に『クソ提督！』を聞いた時ちょっと引きましたしね…」

提督「だからあいつにも周りがどう思ってるか知ってほしいんだ。では、そろそろボタンを押そうと思う。」

青葉「イメージしながら押した艦娘の短所を周りが強調して真似してくるんですか？」

提督「ああ、大体そんな感じだ。ただし実際は普通に接しているし何も変わらない。」

青葉（あれ、そしたら曙ちゃん恥かくどころで済まないんじゃ）

提督「それでは押すぞ…短所強調ボタン、オン！」ポチッ

実験開始！～曙編～

提督「どれどれ曙の様子は…っと」
青葉「部屋でぐっすり寝てますね～。可愛らしい寝顔ＧＥＴです！」
提督「お、漣達が起きたな」
漣「んぁーよく寝たー　ぼのたーん、朝だよーん」
潮「ふふっお寝坊さんだなぁ」
朧「曙、起きて！」
…ぼの！　…たーん　…ぼのちゃーん
曙「んんぅ…おはよう、あんた達…」
漣「おっはークソぼの！」
潮「おはようクソぼのちゃん！」
朧「おはようクソぼの、早く食堂行こ？」
曙「…は？あんた達何言ってるの？」
漣「おぉう、どうしたクソぼのそんなお目目ぱっちりさせちゃって」
曙「あんたが仕組んだの？今ならまだ半殺しで済ませてやるから土下座して謝りなさ

い」
漣「え？ちょっと漣ちゃん何言ってるかわかんない…」
潮「どうしたのクソぼのちゃん？まだ寝ぼけてるの？」
曙「潮まで…朧、こいつらにすぐやめるよう言いなさい。付き合ってらんないわ」
朧「やめるも何も…クソぼのが今一番おかしいっていうか…」
曙「…もういいわ。さっさと食堂行きましょ。」

提督『まだ信じられないって感じだな。曙は口こそ悪いが誰よりも第七を大事にしているからダメージは大きいだろう』
青葉『うわぁ…これはキツイですね…』
提督『何を言う、1日はまだ始まったばかりだぞ？』ウキウキ
青葉『なんで提督してるんだろうこの人』

漣「うわー混んでるねー」
潮「どこに座ろうかな…」

朧「あ、長門さんと陸奥さんが手招きしてる」
漣「戦艦と相席キタコレ！クソぼの、早くご飯貰っていこ！」
曙「えぇ…」
曙（私が疲れてるのかな…すごく嫌な気分。）
朧「おはようございます、長門さん、陸奥さん」
潮「おはようございます！」
漣「おっはようございまーす！」
曙「…おはようございます。」
長門「おはよう、漣、潮、朧、クソぼの。良い挨拶だ。」
陸奥「おはよう、席空かなそうだったから相席にしたんだけど大丈夫だったかしら？」
朧「全然問題無いです！寧ろこんな珍しい機会を作ってくださりありがとうございます！」
陸奥「そんなに気を遣わなくていいのよ？ほら、早くご飯貰ってきなさい。」
潮「はい。行こう、みんな」
漣「ほーい。今日何にしようかなー…」
朧「私卵焼き定食でいいや」
潮「私もそれにしよう、クソぼのちゃんは？」

曙「…白米だけでいいわ。」
漣「本当にどうしたのクソぼの…今日は午後から実技試験だよ？」
潮「そうだよ、ちゃんと食べないと」
朧「おかず一つだけでもいいから食べよ、クソぼの？」
曙「…うん」ウルウル

提督『あーあ、泣いちゃったよ』
青葉『それでも今日1日はクソが名前の前につくんですよね…こわっ』
提督『こんなに強調されるってのは予想外だったな。流石明石印のボタンだわ』
青葉『資源の9割9分9厘使っただけありますね～』
提督『やめろ…忘れたいんだよその事は』

朧「すみません、遅くなって」
長門「どうかしたのか？クソぼのの目元が赤いが」

漣「それがさっぱり。朝からこの調子なんですよねー」
陸奥「おかずも少ないし…食事量を減らしすぎるのも体に悪いのよ?」
潮「ほら、私のおかず分けてあげるからちゃんと食べよ?クソぼのちゃん」
曙「…ありがとう」
曙（私がいつも提督をクソ提督って呼んでるからバチが当たったんだ…まさか提督もいつもこんな気持ちだったの…?）
長門「私達は食べ終わったからここを出るぞ。あと、分かっていると思うが今日は午後から海上移動の実技試験だ、遅刻するなよ?」
漣「サー!長門教官!」
陸奥「長門、いつもこんな返事させてるの…?」
長門「ち、違う、誤解だ陸奥!漣も変な返事をするんじゃない!」
朧「あはは、漣ちゃん今日も調子いいなー」
潮「怒られなければいいんだけど…」ヒヤヒヤ
曙（なんでみんな楽しそうにしてるの?私、本当はみんなに嫌われてるんじゃ…）

青葉『お、曙ちゃんが不安そうになってきましたよ!』

提督『うん、やっぱり可愛いな曙は』
青葉『強気な曙ちゃんがこんな表情…現場に行けないのが残念です！』
提督『まぁ録画して後で何度もみるのも良いだろう。さて、続きを見ようか。』

午後
長門「それでは今から海上移動の実技試験を行う！くれぐれも怪我だけはしないように！」
曙、朧、漣、潮「はい！」
曙（色々気になる事はあるけど今は試験に集中しなきゃ…）
長門「次、曙！」
曙「は、はい！」
曙（いつもより足がふらつく…朝ご飯食べなかったから…？でももっと別の違和感がある…）
長門「では、始め！」
曙（大丈夫…海上移動なんて基礎の基礎…今更ミスなんて…）
曙（…ッ!?カーブしたいのに減速しない!?なんで…）

漣「な、長門教官!クソぼのが!」
長門「ん…?まさかあいつ、試験前に艤装のチェックを怠ったな!」
バッシャーン!
曙（なんで…なんで私ばかり…）
漣「大丈夫!?クソぼの!」
長門「立てるか?無理をするなよ、クソぼの」
曙「…ッ…でしょ。」
漣「え?何て言ったの?」
曙「あんた達が仕組んだんでしょ!わざと私がコケるように!もううんざりよ!朝からクソぼのクソぼのって…私の口が悪いのが嫌ならはっきり言ってよ!こんな幼稚なことして何が面白いの!?」
曙「お願いだから…もうやめてよ…グスッ　」
潮「く、クソぼのちゃん…?」
朧「クソぼの、今のは漣に失礼だよ、謝りなよ。」
長門「その通りだクソぼの。自分の整備不足を漣のせいにするんじゃない。謝るんだ。」
曙「もうイヤァァ!みんな大ッ嫌いよ!」ダッ

長門「おい、曙!?」
曙（もう嫌だ…もうクソなんて言わないから…許してよ提督…！）
曙「て、提督、入るわよ…？」
提督（おぉう、ぼのたんすっかり参ってるよ）
青葉（これは青葉邪魔な感じですね…外に出てましょう）
青葉「それでは青葉は新たなスクープを探しに行ってきますね！では！」
提督「…さて、こんなに走って来たってことは何か大事な用があるんだろ？」
曙「あ、あの、その、」
曙（どうして…？どうして「今までクソ提督なんて呼んでごめんなさい」って言えないの…？）
曙「う、うぁ…」ジワァ
提督「おおお落ち着け曙、泣くな、な！」（目の前で泣かれるとテンパる）
曙「うぅ…わ、私っ、今まで、提督がこん、な、気持ちだっで、思わなぐて、ク、クソどが、皆のことかん、がえてるのに、言って、ごめんなざい、」
提督「大丈夫だから！俺全然気にしてないから！だから泣き止め！な！ほら鼻チーンして！」
曙「でも、」

提督「本当に大丈夫だから!全部このボタンのせいだから!」
曙「…ボタ、ン?」
提督「そう!イメージした人の短所を体験させるボタンだけど意地が悪過ぎたな!悪い!」
曙「…つまりあんたが元凶なの?」
提督「え、曙「答えろ」ハイソウデス…」
曙「ほぉう…?そうだったんだ…?」
提督「あ、曙?これは短所を直して貰おうっていう目的があってだな?」
曙「玉と棒、どっちが良い?」
提督「…イタクナイホウデオネガ曙「●ねゴミ」プチッあああああああ!!!!!!!!」
曙（まったくあのクソ提督は…でも、これからはクソ提督って呼ぶの控えようかな…）
曙（でも一番嬉しいのは…皆に嫌われてなかったこと!）
曙（これからもよろしくね…あんた達。）

青葉「やっべぇこれバレたら私死ぬじゃん…でもたくさんぼのたんの泣き顔とか撮れたしプラマイゼ曙「あんたも共犯なのね？」ロ…」

青葉「…」ギギギ

曙「ニコッ」

青葉「…ぼのたんの泣き顔、可愛かっ曙「●ね」あああああああ!!!!!」

実験をしよう！～山城編～

提督「次のターゲットは…山城だ！」
青葉「あの人常に暗い表情なので写真撮りづらいんですよね…何故かあの姉妹だけは撮る時に罪悪感のようなものが…」
提督「俺も最初は『不幸だわ…』を聞く度にそうなったけど流石に1日に何十回も言われると慣れるんだよなぁ…」
青葉「私は何度聞いても慣れませんね…」
提督「だがそこもあいつの可愛らしいところだ。慣れると『不幸だわ…』のニュアンスも分かってくるぞ。さて、そろそろ実験を始めようか」
青葉「朝起きたら鎮守府の皆が『不幸だわ…』って言うんですね…ワンパターンですけど気は滅入っちゃいますね」
提督「それでは実験スタート！」ポチッ

山城「うぅ…雨の音でろくに眠れなかったなんて不幸だわ…」

山城（あぁ…でも姉様の美しい寝顔が見れた…今日は良い事があるわね…）
山城「姉様、起きてください。朝です。」フトンユサユサ
扶桑「あぁ…おはよう山城。今日もいい天気…ではないわね。土砂降りなんて不幸だわ…」
山城「昨日の夜からずっと降ってますね…私が雨女だから…」
扶桑「いや私の方が悪いのよ…私も雨女だから…」
山城＆扶桑「あぁ…不幸だわ…」

提督『え、あいつらの朝ってこんな暗いの？既に気分ブルーになってきたんだけど』
青葉『あの人達はずっとあんな感じですよ…だから出撃で一緒の班になると空気が重くなるんです。』
提督『まぁ…はしゃぐよりは緊張感があっていいってことで…お、食堂に行ったぞ』

扶桑「さて、今日は何を食べようかしら…」
山城「私は姉様と同じものを…って何か空気が重いですね」

扶桑「そうね…駆逐艦の子達も何も話さないで黙々と食べてるわ」
山城「どうしたのよあんた達？具合が悪いなら部屋に戻ってなさい。」
電「土砂降りの中遠征なんて不幸なのです…」
雷「急に出撃の予定が遠征になるなんて不幸ね…」
暁「味噌汁にナスが入ってる…不幸だわ…」
ヴェル「それは今違うんじゃないかな」

提督『おぉ…あの第６ですらこんなに暗くなるのか、いつもは仲良くはしゃいでるのに』
青葉『なにせ強調されてますからね、そりゃ皆暗くなりますよ』
提督『それに対して山城はどんな反応を取るんだ？』

山城「私達の真似をしている…？駆逐艦に真似されるなんて不幸だわ…」
扶桑「ほら、早く食べて遠征に行きなさい。」
電、雷、暁、ヴェル「わかりました…」

山城「まったく仕事の愚痴を言うなんて…艦娘の風上にも置けないわね。」
扶桑「いやあなたも言ってるのよ?」
山城「私はほら…ちゃんと仕事をしてから愚痴を言ってますから…」
扶桑「だから良いってことにはならないでしょう…はぁ、ツッコミ役になるなんて不幸だわ…」

青葉『山城さん何かあまり気にしてませんでしたね。というか扶桑さんに変化が見られないのですが…』
提督『ある程度はこうなると予想してたがな。あと扶桑が影響を受けないってことはいつもあの調子ってことじゃないか?』
青葉『明石さんの発明をも凌駕するシンクロ率ですか…』
提督『それだけあいつらの思考は同じってことだろう。今度は廊下に移動したぞ』

雪風「あ、扶桑さん、山城さん、おはようございます」
山城「ヒィイイイ!?幸運が移るゥゥゥ!?」

扶桑「こら山城、そんなこと言っちゃ駄目っていつも…」
雪風「はぁ…会う度にこんな反応されるなんて不幸です…」
山城（!?雪風の口から不幸ですって…？やっぱり今日は何かがおかしい…）
扶桑「ごめんなさい雪風、いつも山城が…」
雪風「いえ、悪いのは幸運な雪風ですから。幸運が不幸の元になるなんて…はぁ…」
山城「ご、ごめんなさいね雪風？私も少し反応がオーバーだったわ。」
雪風「分かりました…でもこれからは少し控えてくださいね？」
山城「え、えぇ、もちろんよ！」
山城（明るい雪風が暗くなって調子が狂うわね…）

提督『山城にも少しずつ不安の表情が見えてきたな…さて、ここでイベントを起こすか』スマホスッスッ
青葉『イベント？一体何をするんですか？』
提督『雨も上がったしたった今近くの鎮守府に演習を申し込んだ。それに山城を参加させる。』
青葉『数少ない資材を…というかそんなすぐできる訳ないでしょう』

提督『ラインの返信来て1時間後開始することになったぞ』
青葉『えぇ…』
提督『てな訳で放送かけて演習してくる。少しの間席外すぞ。』
青葉『あ、外に出るならこの極小カメラ胸元につけて撮影してきてください！』
提督『はいはいわかったよ。んじゃ、行ってくるわ』

提督『あー…突然だが演習をすることになった。山城、夕立、江風、那珂、隼鷹、比叡。以上6名は演習の準備をして正門前集合。艤装のチェックは速やかに行うように。』
扶桑「あら演習？そんな予定無かったはずだけど…」
山城「いきなり演習に行けなんて…姉様と一緒にいれないじゃない…」
扶桑「でも仕事の愚痴は仕事をしてから言うんでしょう？なら早く行ってきなさい…はぁ…山城と休日を過ごせないなんて不幸だわ…」
山城「姉様…！待っていてください、10分で終わらせてきます！」
扶桑「無理しないのよ～」
提督「さて、全員揃ったな。それでは移動するからついて来い。」
比叡「はぁ…金剛姉様とティータイム出来ないなんて不幸です…」

江風「せっかく山風と遊んでたのに…不幸だ…」
那珂「歌のレッスン中止なんて不幸だな…」
夕立「時雨とケーキ食べに行きたかったのに…不幸っぽい～」
隼鷹「人が気持ち良く昼から飲んでるっつーに…不幸だ…」ヒック
山城（嘘でしょ!?あんなにうるさくなると思ったのに皆こんな暗く雰囲気…ていうかこれ…見てると何だか…）
山城（イ　ラ　イ　ラ　す　る）
山城（私って周りから見たらこんな感じなのかしら…直さないといけないわね…）
提督「よし着いたぞ、各自挨拶をして位置につけ！」
山城「はい！」
比叡、隼鷹、那珂、江風、夕立「はい（っぽい）…」
山城（位置に着いたはいいけど皆覇気がまるでない…これじゃあ負けてしまうじゃない！）
山城「ちょっとあんた達！さっきもだけどもっと気合い入れなさいよ！やる気あるの!?」
隼鷹「やる気も何も…」
夕立「無理矢理呼び出されてやる気は出ないっぽい…」

山城「〜〜〜ついいわよ！だったらせめて旗艦の私を守りなさい！敵は私が沈めるから！」

江風「演習前に怒鳴られるなんて不幸だ…」

那珂「被弾したら不幸だけどなるべくそうするよ…」

山城「…っ！」

山城（これが周りから見た私…？こんなやる気のないのが…？）

提督（お、そろそろ自覚し始めたようだな）

山城「…いいわ、だったら私自身がこんなの私じゃないって証明してあげる。見てなさい…！」

提督「準備が出来たな？それでは…演習開始！」

〜〜〜艦娘演習中〜〜〜

大和「きゃあっ!?嘘…」撃沈

山城「勝った…？やった…やったわ！」中破

提督「そこまで！大和撃沈判定！よってこの演習は我が鎮守府の勝利！これにて演習を終了する！」

山城「提督！私、勝ちました！」

提督「流石だ山城。だがお前は自身が無いのかいつも雰囲気が暗い。今ぐらいの雰囲

気で周りと接してみてくれ。」
山城（そういえば私、提督に勝利を伝える時自然に明るく…まさか、私提督が…！）
山城「て、そ、そんな訳ないじゃないこのバカ！」ドンッ
提督「痛って！いきなり背中押すな山城！ボタン「カタン」…」
山城「短所強調ボタン…？…提督、これは？」
提督「い、イメージした艦娘の短所を体験させるボタンで山城「壊しなさい」え」
山城「そのボタンを壊しなさい。それとも死ぬ？」
提督「仰せの通りに！」ゴシャア
提督（念のため初めからスペア発注してしてて良かった…実験はまだまだ続くぜ！）
山城「さて、あんた達。いきなり演習に呼ばれたのはこいつが原因よ。盛大に罰を与えなさい。」
江風「へェ…提督がねぇ」ゴゴゴ
那珂「提督が那珂ちゃんの練習時間を奪ったんだ…」ゴゴゴ
比叡「提督がティータイムに参加できなかった原因なんですね…」ゴゴゴ
隼鷹「これは呑んだ酒の分は返してもらわないとねぇ…酔いが醒めちまったからな…」ゴゴゴ
夕立「提督さん…素敵なパーティーしましょっ??」ゴゴゴ

提督「ヒッや、やめろ…助けてくれ…お願いだ！」
山城「自業自得、良かったですね。良い教訓が出来て。」ニタァ
提督「オレのそばに近寄るなああーーーーーーーーーッ」

青葉「やっぱりついてかないで正解でしたね～青葉には学習能力があるのです。」
青葉「さて、片付けて部屋に戻りますか」クルッ
扶桑「随分楽しそうだったわね…」
青葉「」
扶桑「山城をイジめた罰はちゃんと受けてもらうわよ？」ゴゴゴ
青葉（鍵かけるべきだな、今度からそうしよう）
扶桑「では…砲撃始め！」
青葉「ああああああ!!!!」
鎮守府が半壊しました
山城（…少しは明るくなってみようかしら。）クスッ

実験をしよう！～川内編～

提督「次のターゲットは川内だ。だがその前にボタンに改良を加えてな…そろそろ明石が持ってくるだろう。」
青葉「改良ですか？一体何の機能をつけたんです？」
提督「まぁその辺は明石が来たら話す。少し待ってくれ。」
明石「提督ー！ボタンの改良が終わりましたー！」
提督「噂をすれば何とやらだな。お疲れ様、明石。では、簡単に改良点を説明しよう。」
提督「今まではターゲットが周りの声をどう聞いているか分からなかったが、今回からはちゃんと反映されるようになった。」
青葉「なるほど、こちらも反応しやすくなりますね！」
明石「え？青葉も参加してたの？」
青葉「うん、やっぱり滅多に見れない良い表情を沢山撮りたいじゃない？」
明石「全く…痛い目見ないくらいにしときなさいよ？」
青葉「あはは…はーい…」
提督（耳が痛くなるな…まぁ痛い目見てもやめないけど）

提督「そうだ明石、お前も見てみないか？」
明石「今日は艤装修理の予定も無いし…では参加させていただきますね！」
提督＆青葉（よっしゃ共犯確保）
提督「あと今回はじっくり時間をかけて実験するからな。あの短所は一日や二日で直るものじゃない。」
青葉「まぁ川内さんって時点で短所は想像つきますよね～」
提督「それでは早速実験を始めるぞ。スイッチオン！」ポチッ

川内「おはよう神通、那珂！夜戦しよ！」
神通「朝から何言ってるんですか…夜戦って漢字知ってます？」
川内「それ位楽しみってことだよ！早く夜戦がしたい！」
那珂「んん～姉さんうるさい…」
川内「そんな！ただ夜戦を楽しみにしてるだけなのに！」
神通「それが原因ですよ…ほら、これ以上は隣の部屋の娘に迷惑になりますから食堂へ行きましょう？」
川内「はーい…あーあ、早く夜にならないかなー」

提督『朝から夜戦って何言ってんだあいつ』
青葉『もはや一日中あぁやって夜戦夜戦って騒いでるくらいですよ…何を言うにもまずは夜戦、それ位夜戦が好きみたいです。』
明石『流石にずっとこう騒がれたら疲れますよ…しかも神通さん川内さんと那珂ちゃんの板挟みじゃないですか…』
提督『だから最近顔色が悪いのか。鎮守府に来た時はそんなに騒いでなかったのにな…』
青葉『鎮守府に慣れたからでしょうね…でも提督、どうやってこの短所を治すんですか？』
提督『まずは遠征を連続でやらせて疲れさせる。1、2回の遠征じゃあいつはすぐに夜戦に行きたがるからな』
明石『疲れさせて夜戦に行けないようにするって割と酷くないですか…？』
提督『それだけ苦情が多いんだよ…それじゃあ実験に戻るぞ』

川内「遠征だ～！ねぇねぇみんな！帰りに夜戦していこ！」
満潮「資材運んだまま夜戦なんて自殺行為じゃない…すぐ帰るわよ」
川内「そんな～」
電「川内さんは出来ても私達駆逐艦には厳しいのです…」
川内「ちぇ～まぁいいや、帰ったら提督に夜戦の許可貰おう」
遠征終了後
川内「提督～？遠征終わったから夜戦してもいいよね？」
提督「お、丁度良かった。実は駆逐艦の娘達が夜から遠征に行きたいって言っててな…」
川内「夜から遠征？なんでそんな急に？」
提督「あいつらは『夜の海はロマンチックだ～』とか言ってたから何かの旅番組でもみたんだろう。そこでだ川内、夜戦する体力があるならあいつらに同伴してくれないか？流石に駆逐艦だけでは心配だからな」
川内「ふーん…いいよ！じゃあ遠征行ってくるね！」
提督「おう、あいつらは既に準備終わってお前を待ってるからな」
川内「りょーかーい！」

青葉『流石川内さん体力ありますね～』
明石『二連続ってかなり辛いと思うよ…しかも駆逐艦の面倒見ながらでしょ？』
青葉『むしろ駆逐艦の娘達が川内さんの面倒見るかもよ？』
明石『ふふ、簡単に想像できるわね』

川内「君達夜に遠征したいなんて珍しいね！でも何で出撃じゃないの？」
雷「夜戦はまだ駆逐艦の娘達には早いって言ってたわ！あと資材が勿体無いって！」
川内「後半の方が本音のような…駆逐艦でも夜戦は出来るのに。」
暁「速く行きましょ！ロマンティックな海が私達を待ってるわ！」
川内「やる気満々だね～というかメンバー自体が珍しいね」
吹雪「暁ちゃんに誘われて断れなくって…」
時雨「僕もだよ…あんなキラキラした瞳でお願いされたら誰でもＯＫしちゃうって…」
不知火「フンス！」↑番組を見て自分も行きたくなった

川内「あはは…んじゃあそろそろ行こっか？」
暁「もちろんよ！みんな準備はいいわね？」
雷、時雨、吹雪、川内「おー！」
不知火「お…おー」

暁「本当に夜の海って綺麗ね…お星様がたくさん見えるわ！」
時雨「水面に映る月も乙だね。なんか好きかもこういうの。」
雷「でも暗くて少し怖いわね…」
吹雪「無理して夜に行くからだよ…ってあれ？不知火ちゃんは？」
不知火「ジー」水面に映る月をじっと見ている
川内「あはは、不知火も夜の海を気に入ったかな？」
不知火「!?す、すみません、月に夢中になって…」
暁「こんなに綺麗だもの、仕方ないわ！」
吹雪「色んな所を見て回らない？きっともっとすごい景色が見れるかも！」
不知火「駄目です。今は遠征に集中しましょう。」

川内「夜の海は綺麗だけど危険もあるからね、早く帰った方がいいかも」
吹雪「分かりました…」
暁「また行けばいいわ！だからそんな落ち込まないのよ！」
吹雪「暁ちゃんがレディーに見える!?」
暁「どういう意味よ！」プンスカ！
川内（こんなに元気なら問題なさそうかな？）
～～1時間後～～
暁「ふぁあ…眠いわ…」
雷「私もそろそろベッドで寝る時間よ…」
川内「やっぱり子供には厳しいかぁ…よし、私が資材持つよ！」
暁「ありがとう…」
雷「ごめんなさいね…」
川内「いいのいいの！何たって夜でも元気なのが私の取り柄だから！」
吹雪「すごい…あんな軽々と…」
不知火「流石ですね。やはり軽巡なだけあって私達より力があります。」

提督『遠征中に寝るなよ…敵と会ったらどうすんだ』
青葉『それなりの練度があってもまだ子供ですし…夜戦好きが反映されてるとはいえ仕方ない部分もあるんじゃないですか？』
明石『でも川内さんちゃんと面倒見切れてますね。どうやら杞憂だったようです』

〜〜遠征終了〜〜
川内「あー疲れた…」
川内「流石に明日は夜戦はいいや…早く寝よう」
川内「おやすみ神通、那珂…」
翌日
提督「おはよう川内。昨日はお疲れ様。」
川内「おはよー提督…今週秘書艦なんてツイてないなぁ…」
提督「まぁそういうなよ、今日は書類捌くだけだからさ」
川内「うぅ…私事務仕事きらーい」
提督「全くお前は…ほら早く終わったら仕事終わりにしていいから」

川内「本当…？よーし、頑張るぞ！」
１９００　提督「お疲れ様、もう上がっていいぞ」
川内「仕事長すぎるよ…私疲れちゃった」
提督「今日はゆっくり休んだ方が良いな、昨日も一日中遠征だったし」
川内「そうする…じゃあね提督、おやすみ！」

青葉『良い感じに疲れてますね…でも本場はここからですよ』グヘヘ
明石『うわぁ…すっごい悪い顔…』
青葉『話し声でも夜戦夜戦って騒いでるように聞こえるようになりますからね…それにどう反応するか期待です！』

川内「さて風呂にも入って歯も磨いたし…ようやく寝れる…」
隣の部屋「夜戦だー！夜戦だー！」

川内「少し隣の部屋うるさいけど…まぁいいや寝よう…」
川内「すぅ…すぅ…」
隣の部屋「夜戦だー！夜戦だー！」
川内「んぅ…」
隣の部屋「夜戦！夜戦しよ！」
川内「…」
隣の部屋「夜戦！夜戦！夜戦！夜戦！」
川内「プチッ」
川内「ちょっとー？夜戦したいのは分かるけど静かにしてくれるー？眠れないんだけど…」
睦月「こんばんは川内さん…って夜戦？そんな話してないですけど…」
川内「はぁ？あれだけ騒いでたじゃない！」
如月「私達は最近できたカフェについて話してただけよ？うるさかったなら謝るけど…」
川内（あれは確かに夜戦って騒いでたけど…疲れたからかな？）
川内「ごめん勘違いだったかも…おやすみ２人とも」
睦月「は、はい。おやすみなさい…」

川内「何だったんだろう…でもやっと寝れる…」
隣の部屋「夜戦したい！夜戦！夜戦しよ！」
川内（また聞こえてきた…でもさっき聞いたから注意に行きづらい…）
川内（今晩寝れるのかな…）
翌日　川内「結局寝れなかった…」
神通「おはようございます、姉さん…ってクマが出来てますよ？」
那珂「おっはよー川内ちゃん、そのクマどうしたの？」
川内「おはよう神通、那珂…昨日あまり寝れなくてさ…」
神通「珍しいですね…無理はしないでくださいね？」
那珂「今週秘書艦なんでしょー？ほら那珂ちゃんの笑顔で元気になって！」ニコッ
川内「ありがとう２人とも、元気が出たよ！じゃあ提督のとこ行ってくる！」

提督「おはよう川内…クマができてるな」
川内「あはは…昨日寝れなくてさ。」
提督「そうか…だが今日から重要な書類を扱うからな、注意してくれ」
川内「うん…分かったよ…」

こうして長い勤務時間、終われば夜戦騒ぎが聞こえる生活になってから一週間が経とうとしていた。

川内（この一週間私はほとんど寝れていない）

川内（寝ようとしても夜戦騒ぎが聞こえるし、重要な山場だから仮眠とりますなんて言いにくいし…）

川内（妹たちからもクマについてよく聞かれるようになった。心配かけたくないのになぁ…）

川内（そして何より…この夜戦騒ぎは夜戦がしたくてたまらない時の私とよく似ていることに気づいた。）

川内（みんなこんな気持ちだったのかな…ごめんね、みんな…）

提督「おはよう川内…大丈夫か？お前…」

川内「うん…平気だよ…でも一つお願いがあるの。」

提督「何だ？言ってみろ。」

川内「夜戦騒ぎを解決してくれないかな…よく夜になると聞こえてくるんだよ…今ま

で騒いでた私が言うのもおかしな話なんだけどさ、これからは控えるから…」
提督「あぁ、もちろんだ。隣の部屋からだっけか？早めに解決しよう。」
川内「…提督、何か隠してない？」
提督「ふぇっ!?な、何も隠してないぞ…」
川内「ふーん…じゃあさ…」
川内「何で隣の部屋って分かった の？」
提督「あぁ!?そ、それはなんとなーくそんな気がしてな…」
川内「じゃあなんで焦ってるの？焦る必要なくない？」
提督「そ、それはだな…」
青葉「提督…もうだめです…」
明石「神通さんにバレました…」
神通「こんな実験するなんて…やはり青葉さんと明石さんが絡んでましたか…厳しい訓練をお望みなんですね？」
川内「実験…？あぁ、だから最初に騒いでないって…私にそう聞こえるようにしてただけか…」
提督「やべぇ全部バレてるじゃねーか！俺は逃げるぜ！じゃあな！」

青葉「あ、窓から逃げた!?」
明石「薄情者！ひとでなし！」
神通「うふふ…その心配はいりませんよ…」
提督「よし、着地成功！あとは逃げるだ
那珂「どこ行くの～？」
提督「」
那珂「神通ちゃんから全部聞いたよ…覚悟はいいね？」
提督「じ、慈悲を！お恵みを！」
那珂「うるさい●ね」
ベキゴキドゴォ！グチャミシッコキャッ
提督「」
青葉＆明石「」ガタガタ
神通「それでは貴女達の番ですね…では始めましょうか。」
青葉＆明石「あ…あ…あああああああ!!!!」
川内（やっぱり夜戦騒ぎは本当に控えよう…でもやっと寝れる…おやすみ…）スヤァ…

実験をしよう！～隼鷹＆ポーラ編～

提督「今回のターゲットは２人だ！同時に実験をする！」
青葉「ほーう大きく出ましたね～でも２人って誰と誰です？」
提督「隼鷹とポーラだ」
青葉「あぁ…アル中艦ですね」
提督「酷い言い草だな…いや合ってるけども。」
青葉「あの人達いっつも朝廊下で寝てるんですよ…周りの娘みんなドン引きしてます。」
提督「マジか…見回り何やってんだよ…まぁお前の言う通りこいつらは他の飲兵衛と比べてもかなりタチが悪い。」
青葉「そこで２人をアル中から脱却させるわけですね！」
提督「その通り。ちなみに飛鷹とザラには許可を取ってある。」
青葉「よっしゃ今回はしばかれない」
提督「安心して実験ができるのは良いことだ。それでは実験開始だ！」ポチッ

隼鷹「あぁ～頭痛ぇ…朝か…だりぃ…」
飛鷹「ちょっと隼鷹ちゃんとしなさいよ！今日演習あるんでしょ？」
隼鷹「大声出さないでおくれよ…頭に響くんだからさ…」
飛鷹「人が心配してんのにコイツは…！ほらさっさと布団から出る！」
隼鷹「おいおい揺らすなって、やめろ！分かったから！」
飛鷹「分かってないじゃない！だったらその布団から手を離せ！」
隼鷹「うるさいこの祥鳳もどき！あと5ふ…」ハッ
飛鷹「てめぇ表出ろ」
ドカ―ン！バリバリバリバリ！チュド―ン！
飛鷹「目は覚めたかしら？覚めたらさっさと食堂行ってなさい！」
隼鷹「ぁぃ」ボッコボコ

提督「…頭痛くなってきた」
青葉「朝に聞こえる爆撃音はこれだったんですね…」
提督「もはやアル中矯正しても手遅れな気がする」

青葉「そんな後ろ向きにならなくても…あ、ポーラさんも起きましたよ」

ポーラ「ふわぁ…ザラ姉様おはようございます～」
ザラ「ポーラ…貴女禁酒するって一昨日言ったわよね？」
ポーラ「いやぁ昨日は一日禁酒成功のご褒美として飲んだんです～許してくださ～い～」
ザラ「一日禁酒ってそれ禁酒って言わないし…はぁ、よく聞きなさいポーラ、このままではいけないと思い提督が貴女の性格の改善を図っています」
ポーラ「私の性格の改善～？そんなの無理ですって～」
ザラ「へぇ…そこまで言うならこの一週間、耐え抜いて見せなさい。」

青葉「ポーラさんは比較的まともでしたね～というか提督、隼鷹さん達の短所を反映してどうするんです？寧ろ逆効果な気がするんですが…」
提督「何、要はあいつらは酒さえ無ければ何の問題も無いんだろう？ならば他の艦娘に飲ませようって寸法だが、流石に駆逐艦に酒は飲ませられないから酒は全てジュース

にしている。」
青葉「あれ？元々あった酒はどうしたんです？」
提督「それぞれ別の瓶で別の場所に保存してるよ。流石に捨てるなんて勿体無いことはしないさ。」
青葉「割と大掛かりなんですね…これなら治りそうですね！」

隼鷹「さて、飯も食ったし演習前の景気づけで酒を飲むかね～っておよ？酒が無い…」
鳳翔「すみません、今切らしてまして…」
隼鷹「あれ？昨日少しだけ残した筈だけど…」
鳳翔「それが…加賀さんと瑞鶴さんが喧嘩して…飲み比べで決着つけようって…」
隼鷹「何でいつもの私達みたいなことしてんのさ…しかも朝からかよ…クソ…」
鳳翔「演習が終われば補充が終わるので申し訳ないのですが我慢してください…」
隼鷹「鳳翔さんの頼みなら仕方ないか～んじゃさっさと演習終わらせますかね」

ポーラが入れ違いで食堂に到着

ポーラ「さ～て朝の一杯ですよ～ってあれぇ？お酒が無いですね～」
鳳翔「すみません、先程加賀さんと（ｒｙ」
ポーラ「ほぇ～珍しいですね～あの２人が飲み比べなんて～」
鳳翔（ほっ…酒が切れてても不機嫌にはなって無いようです）
ポーラ「でも酒を飲み干すのはダメですね～酒瓶で頭カチ割りましょうかね～」
鳳翔「」
鳳翔「ご、午後には酒が補充できますから！落ち着いてください！」
ポーラ「んん～鳳翔さんが言うなら我慢します～」
鳳翔（危なかった…）

提督「もう治んねぇなこれ」
青葉「私ポーラさんがあんなに怖い人だとは思ってなかったです…」
提督「隼鷹は隼鷹で今頃演習相手に八つ当たりしてんだろうなぁ…」
青葉「珍しく演習なのにここに残ってますね？」
提督「この実験はかなり重要だからな…あと旗艦大和だからあいつに任せとけば間違いないでしょ」

青葉「本当は？」
提督「隼鷹の八つ当たりの責任取りたくない」
青葉「でしょうね」

隼鷹「あ～終わった～～酒だ酒！酒はあるのかい？」
ポーラ「お～隼鷹さんじゃないですか～良ければ一緒に飲みましょ～」
隼鷹「お、いいね～んじゃあつまみも頼もうか」
ポーラ「鳳翔さーん！チーズとソーセージ！」
隼鷹「私はイカ焼きとカワ２本でー！」
鳳翔「は、はい！」
隼鷹「さて、その間に酒を準備して…っと」
ポーラ「この瓶の触り心地…心が安らぎますぅ～」
隼鷹・ポーラ「ゴクゴクゴク…」
隼鷹・ポーラ「ダンッ」
隼鷹・ポーラ「オレンジジュースだこれ!?」
隼鷹「ちょっと鳳翔さん!?これ中身間違ってるよ!?」

ポーラ「私達はお酒が飲みたいんです！こんな子供騙しじゃありません！」
鳳翔「えっと…その…提督と飛鷹さんとザラさんからですね、貴女達に禁酒をさせるよう言われまして…今鎮守府の中のお酒は全部ジュースになってます…」
隼鷹「えっと…その期間はどのくらい…？」ガクブル
ポーラ「一日ですよね？それとも半日？」ガクブル
鳳翔「…一週間です」
隼鷹＆ポーラ「」
鳳翔「えっと…が、頑張ってください！」
隼鷹「はは…生きる希望を失った…」
ポーラ「いや、まだ希望はあります！」
隼鷹「はぁ…？どう酒を飲むっつーのよ」
ポーラ「消毒用アルコールです！」
隼鷹「…！そうか、それをジュースに混ぜれば！」
隼鷹＆ポーラ「お酒の完成だ！」
隼鷹＆ポーラ「わはははははは！！！！！」

提督「これがアルコール依存患者の末路か…」
青葉「そもそも消毒用アルコールは体に有害ですよ…」
※マジで有害です。真似しないでね！
提督「あいつらなら酒の執念でどうにかしかねんがな、だがあの飲兵衛達が反映されるとどうなるかな…？」

隼鷹「さぁ、消毒用アルコールを持ってきたよ！」
ポーラ「後はジュースを用意するだけ…ってジュースがない?!」
鳳翔「先程駆逐艦の娘達がジュースを全部持っていってしまいました…」
隼鷹「」
ポーラ「」
鳳翔「あまりにも美味しかったようで…つい…あと消毒用アルコールで酒は作れませんよ？」
隼鷹「だあああああ畜生、なんでよりによってジュースなんだ！こんなのすぐ無くな

るに決まってるじゃねーか!」
ポーラ「そうです!酒はおろかジュースも飲めないのはおかしいです!だからお詫びとしてお酒ください!」
鳳翔「駄目です!貴女達は禁酒しているでしょう!怒られても知りませんよ?」
隼鷹「それは困るなぁ…」↑朝に爆撃された
ポーラ「ですねぇ…」↑ガチ説教がトラウマ
鳳翔「とにかく一週間我慢してください!」
飲兵衛という短所が強調されジュースを飲みまくる艦娘達…常に空のジュースの入れ物…こうして飲兵衛2人にとって永遠に感じるほどの一週間が始まった…
2日目　隼鷹「あぁ〜酒が恋しいよ〜」
ポーラ「お酒さんどこですか〜?」
3日目　隼鷹「オラァ沈め!」イライラ
ポーラ「死んでくださ〜い〜」イライラ
金剛「何デスかあの2人は…」ガクブル
4日目　隼鷹「あああああああ酒!酒はどこだ!」
ポーラ「ううううううう酒ぇえええええ」
5日目　隼鷹「酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒

酒酒酒」

ポーラ「酒酒」

6日目　隼鷹「あァ〜お酒ハおいシいなァ」↑水道水を飲みながら

ポーラ「お酒サいこーデす〜オ酒だいスき〜」↑同じく

そして7日目…

隼鷹「きよ、今日でラスト…」

ポーラ「早く飲まないと死にます」（真顔）

提督「お疲れ様、2人とも」

飛鷹「一週間とはいえよく我慢出来たわね」

ザラ「そんな貴女達にご褒美よ」

隼鷹「あ…ああ…ワンカップだぁ…」

ポーラ「この際何でもいいです…酒を…」

隼鷹「じゃあ…」

ポーラ「頂きます…」

隼鷹「ングツングップハア…　あああああうめぇよぉ…」ポロポロ
ポーラ「これがお酒…ああ…尊い…」ポロポロ
青葉「うわぁ…泣きながら飲んでますよ…」
飛鷹「まぁ一週間も我慢したもの、仕方ないわ。」
ザラ「それしても…」
提督「丸で本物の酒みたいに飲むなぁお前達は」
隼鷹＆ポーラ「…は？」
青葉「貴女達が飲んでるのはただの砂糖水ですよ～お酒とは全く関係ありません！」
提督「砂糖水飲んでお酒飲んでる気分になれるようになったんだ、もう酒はいらないだろう」
ザラ「お酒からの卒業おめでとう！」
飛鷹「これからはもう安心ね！」
隼鷹＆ポーラ「こ…この…」プルプル
隼鷹＆ポーラ「「このド畜生がッ！」」
結局隼鷹とポーラが３時間土下座して懇願したのでお酒は無事解放され、飲む頻度も多少はマシになりましたとさ